

令和7年3月3日

朝来中学校区 保護者様

朝来市立朝来中学校
読書活動推進委員会

令和5・6年度 朝来市立朝来中学校読書活動推進事業取組のまとめ

令和5・6年度、読書活動推進事業において、小中連携・「あさご森の図書館との連携」を中心に様々な活動をおこなってまいりました。保護者のみなさまには、アンケートへの回答をはじめ、おすすめ本の紹介ポップをお寄せいただくなど、ご家庭からのご協力をいただいたおかげで、本事業を終えることができました。ありがとうございました。

以下に「令和6年度の主な活動記録」と「成果と課題」をまとめております。また、第3回（最終）アンケートの結果を添付しております。お時間のあるときに読んでいただけたら幸いです。活動記録については中学校での内容が中心となっておりますが、ご了承ください。

今度とも、読書活動の推進、朝来中学校区小・中学校の教育活動にご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

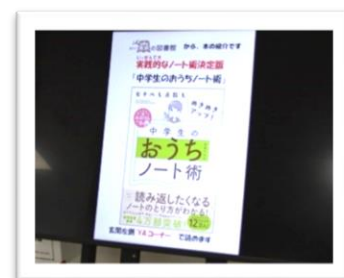
1. 令和6年度の主な活動記録

7月5日（金） あさご森の図書館にて小学生に贈るポップ作成のための本選定



7月16日（月）～ 生徒玄関

- 「読書感想文選定図書」の紹介、読書感想文におすすめしたい本のコーナー設置
- トライやる・ウィーク中、あさご森の図書館で活動していた生徒のおすすめ本の提示



9月11日（水）～13日（金）

○中間読書アンケート実施【Forms】

9月下旬 国語・美術の授業

○1年生：小学校へ届けるポップの作成



9月26日（木）全校集会にて各学年代表によるおすすめ本紹介①



10月3日（木） 朝来中学校 文化祭 意見発表

○2名の生徒が本に関する意見発表

○作成したポップの展示



10月4日（金）、8日（火）

○読書アプリ「Yomumo」の導入・・・中学校のみで試行



10月10日（木） 朝来中学校 図書室

○あさご森の図書館の村橋さんをお招きし、3年生読み聞かせ指導を受けた。



○読み聞かせ訪問時に使用するポップを作成した様子



10月25日（金）

○全校集会にて各学年代表によるおすすめ本紹介②

10月30日（金）

○第2回 3年生読み聞かせ練習

○代表班による発表など



11月5日（火）山口小学校・中川小学校にて

○中学3年生が各小学校を訪問し、小学校1、2年生に読み聞かせ活動実施。

○読み聞かせ後に（中学校）1年生が作成したポップを手渡し。

〈山口小学校〉



〈中川小学校〉



11月13日（水）、14日（木） 2年生による、ビブリオバトル予選会



11月15日（金）18日（月） 研究授業：ビブリオバトル本選



11月17日（月）～ 図書委員プロジェクト『読書の木』の実施

○読んだ本の題名と作者名を掲示。



12月2日（月）～

○小中・あさごの森図書館連携企画 「一つ大人になる君へ」の実施

- ・各学校で「おすすめ本」のポップやパワーポイントを作成し、本を通じてメッセージを送り、本への関心を高められるような取り組みをおこなった。
- ・保護者や地域の方へもメッセージカードを依頼し、本にちなんだメッセージを収集した。



（中学生の作品）

1月14日（火）～1月24日（金）

第3回読書アンケート（児童生徒）を Forms で実施

2月10日（月）

図書委員会による、卒業までに読んでもらいたい本の紹介コーナーの設置

2月18日（火）～3月

「あさご森の図書館」にて『一つ大人になる君へ』企画で作成したポップやパワーポイントの展示



（保護者からのメッセージカード）



（小学生の作品）

3月

○HP、さくら連絡網などで事業報告を公開

2. 成果と課題 ～アンケート結果の分析も含む～

（1）成果

2年間に渡って本事業を続けたことで、学校の中に「読書」という言葉があふれることになった。校内のあちこちに「本の紹介」の掲示物があり、思わず歩くのがゆっくりになる生徒や、朝早く登校して一人でじっくり本を読む生徒、誰かに本を紹介するために一度読んだ本をもう一度読み直す生徒など、今まで見られなかった生徒の姿に出会った。部活動のない水曜日やテスト前期間などは、あさご森の図書館に足を運ぶ生徒が増えたと話して下さった図書館職員さんの笑顔とその言葉も、この事業の成果の一つではないかと考える。

本年度も9月と1月にアンケートを2回実施した。令和5年度に実施したアンケートと比較すると、「読書が好き」と答える児童生徒数は75%を占め、1回目のアンケート結果と大きな変化はなかった。ただし、読書タイムなどで学級文庫を読んでいる児童生徒が減り、「自分で読みたい本を持ってきている」と答える児童生徒が増えた。これは、各小中学校で取り組んでいる『おすすめ本の紹介』や『ビブリオバトル』で、児童生徒たちの中で本の薦めあいが行われ、本を自ら準備しようとする人数が増えたからではないだろうか。さまざまな本に興味を抱くようになったという意味では、本事業は非常に良い機会であった。また、あさご森の図書館が作成している本の紹介リーフレット『もう読んだ？』の認知度も、1回目のアンケートでは6割未満だったところが、今回は7割を超えた。意識

的に目を通す児童生徒、保護者が増えたことがうかがえる。一番の成果と思われることは、この2年間ポップを読んだり、人に勧められたりして、誰かが薦めてくれた本を実際に手に取り、読んだという児童生徒が増えたことである。児童生徒同士、教職員と児童生徒、各家庭内で少なからず『本』に関する話題が出ていると推測できる。このことは教職員のアンケート結果からもうかがえる。

中学校では昨年度、本事業でビブリオバトルを実践した2年生が3年生になり、当時、先輩がおこなっていた「小学生への読み聞かせ訪問」を今度は自分たちがおこなうことになり、自分たちが経験したビブリオバトルを今度は後輩たちが挑戦することになった。そういった「読書の空気」の継承のようなものが校内に漂い、より良いものにしたいと読み聞かせ指導を受けたが、その楽しそうな練習風景は大変印象的であった。予定していなかった本の紹介ポスターを作成し、「もっと小学生たちを喜ばせたい」という積極的な気持ちを見せてくれた。ビブリオバトルは予選、本選を通して、生徒たちはもちろん、教科担当、学年職員が一体となって、熱気あるバトルを披露するに至った。本選に選ばれなかった生徒たちが、「自分たちの作ったパワーポイント資料を掲示して欲しい」「他の班の子、他のクラスの子がどんな本を読んでいるのか、知りたい」と声をあげ、その声に押されて貼られた掲示物を真剣に見ている横顔も印象深い。また、各小学校でも読書に関する取り組みを行っている。本を読んでみよう、読まなくては！と感じる児童が中学生になり、小学生に絵本を読んであげたいと思う生徒が小学校を訪れる。小学校・中学校が連携しあい、『読書の空気』を作り出せていることが、この事業の成果である。

(2) 課題

課題として考えられるのは、ここにあげた取組を継続することである。しかし、実際には読書アンケートからも浮き彫りになったのが、「読書をする時間のなさ」であり、その時間の捻出が課題である。

より一層、生徒が本に触れる機会・時間を増やすためにできることは限られているが「学校での読書」が生徒の大切な読書機会となっているので、学校図書室の本のさらなる充実と環境整備、開館時間の工夫、読書アプリでの感想の交流の活性化が必要である。また、今年度、改装されたあさご森の図書館を、新しい気持ちで利用する生徒や保護者の増加にも期待したいところである。

「文章を読むこと」は生きていく上で必要なことを取り込むことであり、読書を通じて読解力、表現力、探求心、コミュニケーション能力など多くの力を身につけることができる。児童生徒が、生涯にわたってすばらしい本に出会い、心豊かな人生を送ることができるよう、本事業の成果を生かしていきたい。

